

清流

「人権教育講演会」について②

今週号も先週号に引き続き、野田先生の校長室通信から選んだものを掲載します。



つぶやき
自立心と他者認識

下益城城南中学校
校長室通信
平成21年10月13日(火)
No. 20
校長 野田 幸孝



教育無限 (実社会で通じる力)

人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ

アメリカの作家ロバート・フルカムが1988年に書いた本のタイトルです。「人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなければならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は……幼稚園の砂場に埋まっていたのである。」と自分の人生を回想しています。

私の子ども2人は福岡で生まれました。団地住まいでしたが、団地は機能的にできていてスーパーや病院、小学校、幼稚園等も近くにありました。

とりわけ、団地内には公園や小さなプールもあり幼児の遊び場にも不自由しませんでした。休みの日などは、部活動の指導を午前中に終えて子どもを連れて、団地内のプールや砂場でよく一緒に遊んだものです。

その砂場で、2人の娘が【人生に必要な知恵】を学んだかどうかは、現状を見る限りマユツバものですが、よくケンカをしたり仲直りしたりして譲り合うといった体験を通して人間関係を調整する力を身につけたことは確かです。

ちなみに私の場合、神社の境内で人生に必要な多くのことを学ばせてもらった記憶があります。

さて、7月に町内の保育園で保護者の方に話をさせていただく機会をいただきました。自分の挫折や失敗談から学んだことを次の世代に伝えていくことは、退職の日が遠くない私にとって大切な社会貢献とありがたく思いました。

幼児期のからだや頭の柔軟性、脳の臨界期(スポンジが水を吸うように身につける時期があること)、父性的関わりと母性的関わりの大切さ、学校や園への依存ではなく協同の必要性、等々について、我が家の失敗談(ボタンのかけ違い)を回顧しながら話させてもらい、就学前期の大切さを再認識しました。

フルカムは「何でもみんなで分け合うこと」「ずるをしないこと」「人をぶたないこと」「使ったものはかならずもとのところへ戻すこと」「誰かを傷つけたら、ごめんなさい、ということ」などと具体的に述べていますが、中学生はもちろん、大人の私たちでも心がけなければいけないことばかりです。

幼児期は過ぎたから「もう手遅れ」とあきらめずに、社会人に必要な【人間力】の育成に共に頑張ろうではありませんか。

土曜授業 (人権教育講演会) について

8:40~ 9:25(1校時) 授業参観

9:45~11:15 人権教育講演会

演題 「他人と過去は変えられない」

講師 元上益城教育事務所学校支援アドバイザー 野田幸孝 氏

11:40 下校

ぜひ、多くの保護者の方々のご参加をお待ちしております。